

あなたの思いが、赤十字

皆さまからお寄せいただく活動資金をもとに、日

三重県における赤十字活動の新しい拠点が令和6年夏に誕生します



(左側：三重県支部社屋・災害救護支援センター 右側：三重県赤十字血液センター)

災害救護を担当する三重県支部と血液事業を担当する血液センターが共に、移転整備を機に津市あかつ台(中勢グリーンパーク隣)に集結します。

三重県が大規模災害で被災した際、災害救護活動の拠点として、全国から参集する救護班要員の一時休憩、資機材の補充、情報収集・調整の機能など災害救護支援センターの役割・機能を備えた施設を目指します。

平時には、三重県や市町(地区・分区)、DMAT、ボランティア等と連携し、訓練や協議・研修を重ね、発災時に必要な連携・協働が可能な赤十字施設を目指します。



最新の情報は
特設サイトで公開中

災害救護 近年の日赤の救護活動の状況

日本赤十字社は、災害が発生すると救護班等を派遣し、救護所の設置、被災現場や避難所での診療、こころのケア活動を行うほか、被災地における病院支援、避難者の健康支援等、多岐にわたる救護活動を行います。毛布やタオルケット、生活に必要な日用品のセット等の救援物資の配付も行います。

災害の規模に応じて全国91の赤十字病院から常に5～10班程度の医療救護班が2泊3日の行程で切れ目なく派遣され、救護活動を行います。



発災年	災害名	救護活動の実績
平成23年	東日本大震災	医療救護班894班(救護員約6,500人)
平成28年	熊本地震災害	医療救護班207班、こころのケアチーム(救護員約1,700人)
平成30年	北海道胆振東部地震災害	医療救護班・DMAT53班、災害医療コーディネートチーム12班
令和2年	令和2年7月豪雨災害	医療救護班64班、こころのケアチーム38班、災害医療コーディネートチーム19班



青少年赤十字

児童・生徒が赤十字の精神に基づき、実践目標として「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」を掲げ、さまざまな活動を学校教育の中で展開しています。

県内の約410校
78,000人が参加!!



医療事業

伊勢赤十字病院において地域医療を支えています。災害時には、県内の災害医療の要となり、患者の受け入れ、救護班の派遣を行います。



赤十字ボランティア

三重県内では25団・約3,000人のボランティアが、世代や分野を超えて連携し、地域課題の解決に向けて活動しています。



赤十字講習会

さまざまな講習会を開催し、多くの人に救命・健康・安全意識に関する知識・技術を普及しています。

RS県内
15,000人を
対象に開催!



1年に1度、一世帯当たり500円を目

日本赤十字社の活動は、国や県の補助金で運営しているのではなく、地域の皆さまからの活動資金(寄付)を主たる財源としています。

近年における自然災害の頻発化や激甚化、広域化などにより、赤十字の災害救護活動の必要性が増加している一方で、人口減少等により活動資金が減少しています。

今後も、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という赤十字の使命に基づき、活動を継続していくために、赤十字活動資金へのご協力をお願いします。

任意のご協力

町内会・自治会等を通じたご協力に加え、様々な方法で赤十字活動資金にご協力をいただくことができます。

